

凡事徹底

内子中学校長 西本 晃

避難訓練を行いました！（想定外の事態を想定せよ）

6月17日（水）に、避難訓練を行いました。避難開始の前に、教頭先生がプリントを使い、放送で避難回避の行動について確認しました。「地震のときどうする？」、「火災のときどうする？」、「大雨のときどうする？」、「その他、危険を感じたときどうする？」の4つに分けて分かりやすくまとめていますので、是非家庭でも御活用ください。（生徒全員に配布しています。）

また、内中生の合言葉として、「訓練は災害時のように、災害時は訓練のように」行動しようと呼びかけました。そして、全校生徒がそれをしっかり意識し、本当に真剣な態度で訓練に臨みました。もちろん教職員もそれに負けないよう臨場感を持って取り組みました。この気持ちを忘れず、日頃から危機意識を持って、想定外の事態に備えたいと思います。



さて、講評の中でも少し伝えましたが、私の経験を紹介します。

今から2年前の西日本豪雨災害で、当時私が勤務していた大洲市立三善小学校は、床上1mを超える浸水被害を受けました。

職員室、校長室、給食室、調理室、放送室、1年教室は全滅しました。グラウンドの浸水は1m50cmを越え、サッカーゴールが見えなくなるほどでした。体育館も使えなくなり、完全復旧までに約5か月かかりました。

当日私は、校舎の中に泥水が流れ込み、敷地があつという間に池のようになる様子を信じられない気持ちで、眺めていました。最悪の事態を想定していたつもりでも、結果として想定外の事態となり、学校の備品や子どもたちの作品等、大切な物を守れませんでした。今でも後悔しています



でも、この話は悲しい話で終わったわけではありません。実は、三善地区は、西日本豪雨災害の前年に、自主防災組織を立ち上げ、地域を挙げて防災対策に先進的に取り組んでいました。それらの経験があったことや、その日が土曜日で児童や先生方は家庭で過ごしていたこともあり、全員の大切な命を守ることができました。「命より大切なものはない。」と改めて思いました。

また、たくさんの方々から災害復旧のお手伝いやお見舞いをいただきました。保護者、卒業生、校区内を始めとした市内の学校の先生方、県校長会、県PTA連合会、静岡県在住の70年前の卒業生や西条市のダンスクラブ、東京の企業・・・改めて、日本人の温かさを感じました。お陰様で、児童も教職員も、被災に負けない今まで以上の活動が行えました。感謝の二文字では表せない、今でも忘れられない経験です。

臨時休業について

6月19日（金）は、大雨警報に伴い、「自宅待機→臨時休業」の対応をとりました。警報は解除されても、土砂災害や河川の増水の恐れがあることを鑑み、「想定外の事態を想定して」の対応でした。しかし、今回の対応を受け、分かりづらかったことや困ったことがあったのではないかと思います。こんな時はこう連絡してほしい等のご意見がありましたら、遠慮なく学校（学級担任等）までお知らせください。

ステップ3(感染縮小期)に入りました

愛媛県内では、「学習指導における実技・実習等の段階的再開」で、ステップ1（5/25～6/7）、ステップ2（6/8～21）を大きな問題なく経過し、22日からステップ3に入りました。

ステップ3では、「学校長の許可のもと、通常の活動を再開することができる」ようになりました。透明シートやフェイスシールドを外しての授業や、近隣校との部活動の対外試合等が認められています。また、心配していた体育大会の実施も感染防止対策を講じた上で認められました。県外への外出も緩和されています。（これには条件があります）。

なお、学校では全てを一気に緩めるのではなく、徐々に対応していきたいと思っておりますので、御理解・御協力をお願いいたします。

※ 検温などの健康観察、手洗い・手指の消毒、マスク着用（咳エチケット）、3つの感染回避行動等は引き続きの対応となります。

これからの「3つの感染回避行動」

「うつらないよう自己防衛！」
「うつさないよう周りに配慮！」
「習慣化しよう3密対策」



※ 特定の地域への外出自粛は要請しないが、「3つの密」のある場所への外出は」注意すること。

感染の第2波、第3波が来ないように、一人一人が気を付けること。

市郡総体の代替試合について

市郡総体が中止されたことを受け、大洲市喜多郡の中学校の部活動顧問が相談し、3年生の思い出と区切りとなる大会を計画しています。（種目によっては、できない場合もあります。）詳細は、各部活動ごとに連絡がありますが、参加条件（当日の検温等による健康チェック）や応援の制限等がありますので御注意ください。



今のところ、7/23（木）～26（日）、

8/1（土）～2（日）のどこかで、計画されています。